

コミュニティワゴン試行運行の評価と今後の方針について（案）

ルート	現状（平成 27 年度基準）	試行運行から分かったこと		今後の方針（考え方）		
		評価できる点	問題点			
青柳 ルート	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数：12,535 人（平成 26 年度比較 1,851 人増） 一般運賃割合：25.6% 運行経費：10,018,650 円（平成 26 年度比較 1,053,868 円減） 収入額：1,364,350 円（平成 26 年度比較 87,550 円増） 収支率：13.6% 営業係数：734 財政投入額 690 円／人（利用者 1 人当りの財政投入額） 輸送量当たりの事業経費：200 円／人（総輸送量に対する事業経費額） 1 便当たりの利用者数：2.5 人／便 停留所利用状況（多い順）：乗車（矢川駅、緑川、武蔵野の路）、降車（矢川駅、緑川、青柳南アパート東） 曜日毎の利用状況では、火・水・金曜日が少し多いが、大きな差はない。平成 28 年度は土曜日の利用が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年度の「くにっこ」の利用者数と比べ、2,326 人（22.7%）増えていることから交通不便地域の解消には一定の効果があったと考える。 他のルートと比べ一般運賃以外の割合が高いことから、高齢者の外出支援になっているものと考ええる。 バス路線がない青柳地域には矢川駅発着の需要が一定数あることが確認できた。 緑川（西友前）のバス停利用が多いことから買い物などの生活支援になっていると考える。 平成 28 年度 4 月から 9 月の上半期の利用者は、1 日当たり平均約 49 人となり、50 人を超える月がある。 「くにっこ」青柳・泉ルート運行時と比較して、「くにっこミニ」の青柳ルート・泉ルート合算値で利用者数は 7,381 人少ないが、収入は 344,376 円の増になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 終日 30 分間隔での運行に変更したが、誘発的な需要は少なかった。 福祉会館への需要は極めて少なかったことから、平成 29 年 2 月に福祉会館方面の路線を休止した。 移動制約のある高齢者には自宅から停留所まで、又、降車後に目的地まで歩かななくてはならないことから（定時）定路線型での対応は難しい。 目標値に比べ収支率が低く、営業係数高い。 シルバーパスがあることから、高齢者は「くにっこミニ」の有料の運賃に対する価値を見出せないものと思われる。（徒歩又は自転車利用で済んでしまう）（3 ルートとも同じ） 	<ul style="list-style-type: none"> ①継続しない場合 ・収支率 20%未満 ・1 日当りの利用者 50 人未満 ・地域への貢献度の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ア) 別の交通手段を講じない場合 ・運行休止、廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、しょうがいしゃその他の移動制約者の移動支援（個別輸送の充実、タクシー券等）の検討（福祉交通充実のための取組方針）
				<ul style="list-style-type: none"> ②継続する場合 ・収支率 20%以上 ・1 日当りの利用者 50 人以上 ・地域への貢献度の検討 	<ul style="list-style-type: none"> イ) 別の交通手段を講じる場合 ・乗り合い交通 ・導入マニュアルを策定 ・運行休止、廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉バス（無料）の検討（交通会議で検討） （福祉交通充実のための取組方針） ・地域型福祉交通の検討（交通会議で検討） （福祉交通充実のための取組方針）
泉 ルート	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数：6,530 人（平成 26 年度比較 1,098 人増） 一般運賃割合：36.0% 運行経費：10,760,603 円（平成 26 年度比較 145,551 円減） 収入額：787,450 円（平成 26 年度比較 75,750 円増） 収支率：7.3% 営業係数：1,367 財政投入額 1,527 円／人利用者 1 人当りの財政投入額） 輸送量当たりの事業経費：267 円／人（総輸送量に対する事業経費額） 1 便当たりの利用者数：1.6 人／便 停留所利用状況（多い順）：乗車（矢川駅、ママ下湧水公園、河川敷公園）、降車（矢川駅、河川敷公園、南市民プラザ入口） 曜日毎の利用状況では、水曜日が少し多く、土曜日の利用が若干少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 泉三丁目地域から市役所へのアクセスには一定の役割を果たしたと考えられるが、圧倒的に利用が多かったのは、矢川駅停留所であった。 「くにっこ」青柳・泉ルート運行時と比較して、「くにっこミニ」の青柳ルート・泉ルート合算値で利用者数は 7,381 人少ないが、収入は 344,376 円の増になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「くにっこ」泉ルートと比較して利用者数が約 60%の減になっている。 福祉会館で乗り換える利用がほとんど見られなかった。 移動制約のある高齢者には自宅から停留所まで、又、降車後に目的地まで歩かななくてはならないことから（定時）定路線型での対応は難しい。 目標値に比べ収支率がかなり低く、営業係数が高い。 シルバーパスがあることから、高齢者は「くにっこミニ」の有料の運賃に対する価値を見出せないものと思われる。（徒歩又は自転車利用で済んでしまう）（3 ルートとも同じ） 	<ul style="list-style-type: none"> ①継続しない場合 ・収支率 20%未満 ・1 日当りの利用者 50 人未満 ・地域への貢献度の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ア) 別の交通手段を講じない場合 ・運行休止、廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスとの重複路線が長いことから、路線バスの拡充について運行事業者と検討・協議を行っていく。 ・サイクルアンドバスライドの実施の検討（福祉交通充実のための取組方針） ・高齢者、しょうがいしゃその他の移動制約者の移動支援（個別輸送の充実、タクシー券等）の検討（福祉交通充実のための取組方針）
				<ul style="list-style-type: none"> ②継続する場合 ・収支率 20%以上 ・1 日当りの利用者 50 人以上 ・地域への貢献度の検討 	<ul style="list-style-type: none"> イ) 別の交通手段を講じる場合 ・乗り合い交通 ・導入マニュアルを策定 ・運行休止、廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉バス（無料）の検討（交通会議で検討） （福祉交通充実のための取組方針） ・地域型福祉交通の検討（交通会議で検討） （福祉交通充実のための取組方針）
				<ul style="list-style-type: none"> 「くにっこ」運行時と比較して、大幅に利用者数が減少していることや今後の利用者増が見込めないこと、路線バスとの調整で対応可能なことなど総合的に判断するなかで、現段階では継続は難しいと考える。 		

ルート	現状（平成 27 年度基準）	試行運行から分かったこと		今後の方針（考え方）		
		評価できる点	問題点			
矢川・東ルート	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数：7,142 人（平成 26 年度比較 1,277 人増） 一般運賃割合：37.6% 運行経費：10,223,090 円（平成 26 年度比較 1,305,830 円減） 収入額：814,350 円（平成 26 年度比較 81,350 円増） 収支率：8.0% 営業係数：1,255 財政投入額 1,317 円／人利用者 1 人当りの財政投入額） 輸送量当たりの事業経費：330 円／人（総輸送量に対する事業経費額） 1 便当たりの利用者数：2.3 人／便 停留所利用状況（多い順）：乗車（大学寮東、第三団地（東行）、谷保駅北（東行））、降車（総合医療センター南、多摩蘭坂、谷保駅北（矢川行）） 曜日毎の利用状況では、月・水・金曜日が少し多く、土曜日の利用が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の 12.5%が無料の利用者であり、一般の利用も多いことから、未就学児連れの方の利用が比較的多いと考える。 総合医療センター南や多摩蘭坂停留所の利用が多いことから、病院等への利用者が多いと考える。 谷保駅北停留所の利用者が多いことから、谷保駅周辺や駅アクセスに利用していると考え。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉会館で乗り換える利用があまり見られなかった。 多摩総合医療センター内へのアクセスの要望が多かったが、関係機関の理解が得られなかった。 目標値に比べ収支率がかなり低く、営業係数がかなり高い。 移動制約のある高齢者には自宅から停留所まで、又、降車後に目的地まで歩かなくてはならないことから（定時）定路線型での対応は難しい。 矢川団地の建替え工事中であったことから、利用に影響があったと考えるが、将来戸数は現状とあまり変わらない。 シルバーパスがあることから、高齢者は「くにっこミニ」の有料の運賃に対する価値を見出せないものと思われる。（徒歩又は自転車利用で済んでしまう）（3ルートとも同じ） 	①継続しない場合	ア)別の交通手段を講じない場合	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、しょうがいしゃその他の移動制約者の移動支援（個別輸送の充実、タクシー券等）の検討（福祉交通充実のための取組方針） 矢川団地への路線バスの乗り入れ検討
				<ul style="list-style-type: none"> 収支率 20%未満 1 日当りの利用者 50 人未満 地域への貢献度の検討 	イ)別の交通手段を講じる場合	
				②継続する場合	ウ)現状のまま継続	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の伸び悩み、現段階での大幅な伸びは期待できないが、谷保駅利用状況など推移は見る必要がある。 ※継続は難しいと考える。
				<ul style="list-style-type: none"> 収支率 20%以上 1 日当りの利用者 50 人以上 地域への貢献度の検討 	エ)改善する場合	

■評価基準（目標値）について（平成 26 年度第 2 回地域公共交通会議合意事項）

評価は、A・B・Cの三段階とする。

○A：本格運行へ移行

○B：さらなる試行運行の継続…ルートは概ね固定とするが、ダイヤ等については随時改善を重ね、利用向上を図るための試行運行を継続する。

○C：抜本的な見直し…現在の試行運行のルート、ダイヤの抜本の見直し、また、コミュニティワゴン以外の方法への移行も含むものとする。

評価基準（目標値）（ルートごと） ※A,Bについては原則として全ての評価項目で目標値を満たすものとするが、状況に応じた判断を行うこととする。

	A	B	C
1 日当たりの利用者数	70 人以上	50～70 人	50 人未満
財政投入額（年間）	550 万円以下	550～900 万円	900 万円以上
収支率	30%以上 （営業係数 330 以下）	20%以上 （営業係数 500 以下）	20%以下 （営業係数 500 超）

留意点

- ・国立市コミュニティバス「くにっこ」青柳・泉ルートとの比較をあわせておこなう。
- ・高齢者、しょうがい者等の外出に寄与しているかについても考慮する。
- ・財政投入額についてはコミュニティバス事業全体での収支全体で考える。